

# 令和3年度近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰

優秀賞

## 特定非営利活動法人 滋賀県脊髄損傷者協会

(滋賀県草津市草津三丁目14番40号)

### 受賞者の取り組み

障害当事者団体(滋賀県脊髄損傷協会)が、県内すべての鉄道駅(122カ所)及び主要宿泊施設(約70カ所)の宿泊施設のバリアフリー状況について、障害当事者団体の目線できめ細やかに調査。調査結果は、HP「旅しが style! ~湖国を自由にでかけよう~」に掲載するとともに、冊子として、障害当事者団体、関係機関及び県庁内に配布。また、県内の観光情報機関のHPにバナーを掲載してもらい、広く情報を発信をしている。

★ 40項目のチェックリストに基づき、調査。

※ R2年度移動等円滑化評価会議近畿分科会にて報告。

※ 第4回移動等円滑化評価会議においても事例紹介されている。



### バリアフリー化調査結果 冊子(抜粋)

「車いすハート調査隊による宿泊施設・公共交通機関のバリアフリー調査」  
ユニバーサルデザインの取組の推進  
～心のバリアフリーを進め、助け合いのまちづくりをめざして～

#### 1. 事業の目的



障がい当事者目線で調査することにより、的確なバリアフリー情報を収集し、障がいのある方や高齢者、子育て世代の方々に情報提供し、社会参加の促進を図るとともに安心安全で快適に暮らせるまちづくりに貢献することを目的とします。



#### 2. 事業内容



2025年に滋賀県で開催される国スポ・障害者大会では、障がいのある方をはじめ多くの方が来県。滞在されるに当たり宿泊施設や公共交通機関のバリアフリー情報は重要な情報となります。ユニバーサルデザインに注目が集まる中、宿泊施設や公共交通機関のバリアフリー情報を障がい当事者などが調査収集しウェブサイトで公開します。バリアのある施設においても意識向上のきっかけにもなります。合理的配慮やソフト面のサポートについても聞き取り調査の結果を掲載しています。

#### 3. 調査件数



公共交通機関は122カ所(JR59ヶ所、京阪電車24ヶ所、近江鉄道33ヶ所、信楽高原鉄道6ヶ所)、  
宿泊施設は70ヶ所。

#### 4. ホームページアドレス

<http://tabishiga-style.com>



#### 5. 調査後の事業の効果



県内の公共交通機関122カ所の駅は、ハード面において、障がいがあっても外出が容易になってきましたが、「無人駅」や「窓口閉鎖時間あり」の駅が多くなり、スムーズに利用できないこともあります。その場合、介助を必要とされる方が直接、連絡できる連絡先を各駅の備考欄に記載をしています。



駅前の市営駐車場で車いすユーザーが乗降しやすいように3.5m以上の幅で設置された車いす用駐車スペースが料金カウンターの機械(フラップ)のために車いす使用者の乗降ができなくなっていました。設置者の方は今後の改善の方向を示していただき、大津市営駐車場の遺所前の車いす用駐車スペースは、料金カウンターの機械(フラップ)を早々に撤去していただきました。

県内の宿泊施設を約70カ所ありの調査で「バリアフリー法」や「だれもが住みやすくなる福祉滋賀のまちづくり条例」以後に建設された宿泊施設ではユニバーサルルームが設置されています。法改正、以前の宿泊施設についてもユニバーサルルームへの改装やバリアフリー設備の設置をして頂いている宿泊施設が多くありました。また、従来のバリアフリーの対応がない宿泊施設も職員の方のあたたかい配慮や少しの工夫で過ごしやすいくホテルとなっております。



私達、車いす利用者の視点で調査を行う事で調査員も調査に協力いただいた方々もお互いに多くの気づきや発見があり、この事は今回の事業の大きな成果でありユニバーサルデザインの取組の一環を担うことができました。これからもユニバーサルデザインの活動を通じて、誰もが安心して快適に暮らせるまちづくりを考えたいと思います。

### 講評

県と障害当事者団体が協働し、質量共に大規模な調査を行い、調査結果をとりまとめ、公表したことにより、必要な配慮や現状課題への気づきを与えられたことを評価。一過性ではなく、継続して調査を行い、バリアフリー整備状況について、今後も適切に更新されていくことを期待。